

Fujitsu Uvanceで 実現する豊かな社会

富士通株式会社

執行役員SEVP

JapanリージョンCEO

堤 浩幸

経歴

- 1985 NEC 入社
- 2004 シスコシステムズ 入社
- 2006 シスコシステムズ 取締役
- 2009 シスコシステムズ バイスプレジデント
- 2015 サムスン電子ジャパン CEO
サムスン電子 EVP
- 2017 フィリップス・ジャパン 社長
ロイヤルフィリップス SVP
- 2022.4.1 富士通 執行役員 SEVP
JapanリージョンCEO

NEC



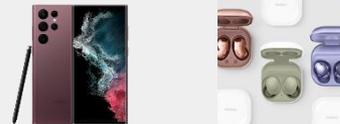
出典 : <https://jpn.nec.com/products/index.html>

CISCO



出典 : https://www.cisco.com/c/ja_jp/products/index.html

SAMSUNG



出典 : <https://www.galaxymobile.jp/smartphones/>

PHILIPS



出典 : <https://www.philips.co.jp/>

私たちをとりまく社会課題

世界はこれまでになく複雑に結びつき、世界中のどこかで起こる社会課題や人々の行動が、私たちの暮らしに大きな影響を与えます。

人々がそれぞれの夢をかたちにしていくためには、社会課題の解決を通じて世界を持続可能にしていくことが不可欠です。



デジタルイノベーションによってサステナビリティ・トランスフォーメーションを実現

- サステナビリティの課題を克服するために、デジタルテクノロジーは大きな可能性を持つ
- これからの10年の最重要テーマは、デジタルイノベーションによるサステナビリティ・トランスフォーメーション（環境・社会・経済により良いインパクトを与えるためにビジネスを変革すること）の推進
- 富士通は、不確実性に対するビジネスのレジリエンスを高め、環境・社会価値を創出するデジタルイノベーションに取り組み、よりサステナブルな未来に向けたビジネスの変革を支援

これからの10年

Sustainability
Transformation

Digital
Transformation

Fujitsu Uvance

Universal + Advance

“あらゆる(Universal)ものをサステナブルな方向に
前進(Advance)させる”

Fujitsu Uvance に込めた想い:

多様な価値を信頼でつなぎ、
変化に適応するしなやかさをもたらすことで、
誰もが夢に向かって前進できる
サステナブルな世界をつくります。

サステナブルな世界を実現する 7 Key Focus Areas

Vertical Areas

社会課題を解決する
クロスインダストリーの4分野



Sustainable
Manufacturing



Consumer
Experience



Healthy
Living



Trusted
Society

Horizontal Areas

クロスインダストリーを支える
3つのテクノロジー基盤



Digital
Shifts



Business
Applications



Hybrid
IT

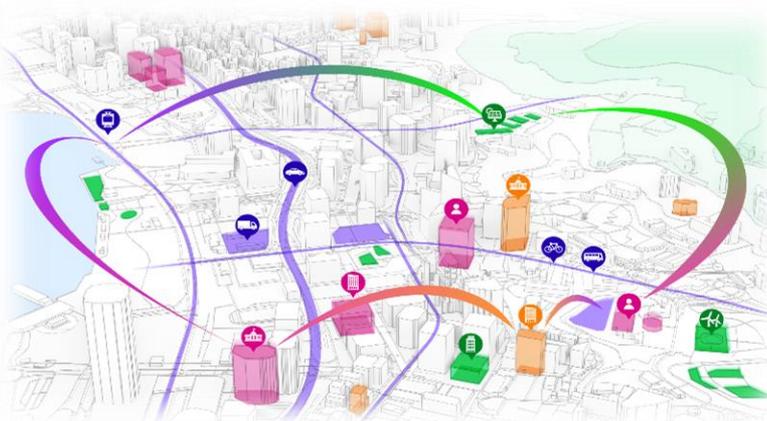
Trusted Society では「豊かで持続可能な社会」の実現にむけ下記4領域に挑みます

Government DX



近代的に最適化されたサービスで公共職員をサポートし、データドリブンな政策決定を実現

労働力の最適化／組織横断のプロセス統合／組織に分散した膨大なデータの活用



Public Services, Safety & Security



安全な地域社会、インクルーシブで連携された住民サービスを提供

地域社会の安心安全／住民の利便性／住民の街づくりへの参画／都市のレジリエンス

Sustainable Transportation



すべてのヒトとモノに最適な移動手段を提供し、移動に新たな価値を創出

スムーズで安全な移動／カーボンニュートラルな交通社会／強靱で持続可能な輸送ネットワーク

Sustainable Energy & Environment



資源と環境の保全、持続可能な低炭素社会への変革

効率的なエネルギーと社会インフラのレジリエンス／自由なエネルギー選択と低炭素生活

スーパーシティ・スマートシティ



Converging Technologies

人文社会科学との融合



Data & Security

分散型トラスト



AI

人と創造的にコラボレーション



Network

超高速ネットワーク/エッジコンピューティング



Computing

民主化された超スケールのコンピューティングパワー

ダイバーシティ 安全・安心 環境 健康 仕事・くらし



Well-being



デジタル装備

デジタルテクノロジーが実現する未来社会



岡山県吉備中央町での取り組み

国家戦略特別区域の選定状況

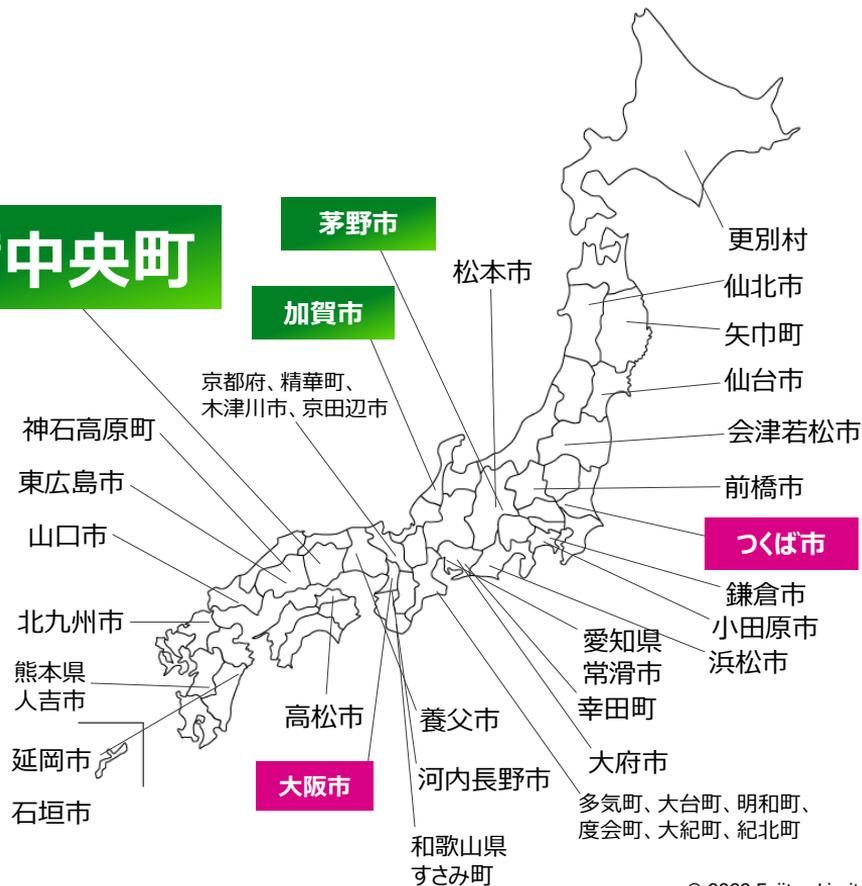
デジタル田園健康特区

人口減少、少子高齢化に対応する
「地域の課題解決」志向

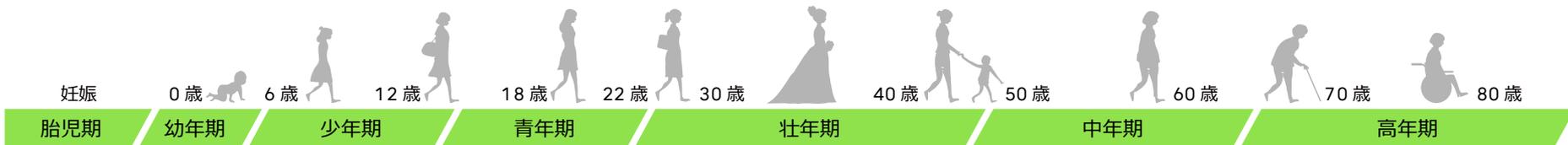
スーパーシティ型国家戦略特区

幅広い分野でDXを進める
「未来社会」志向

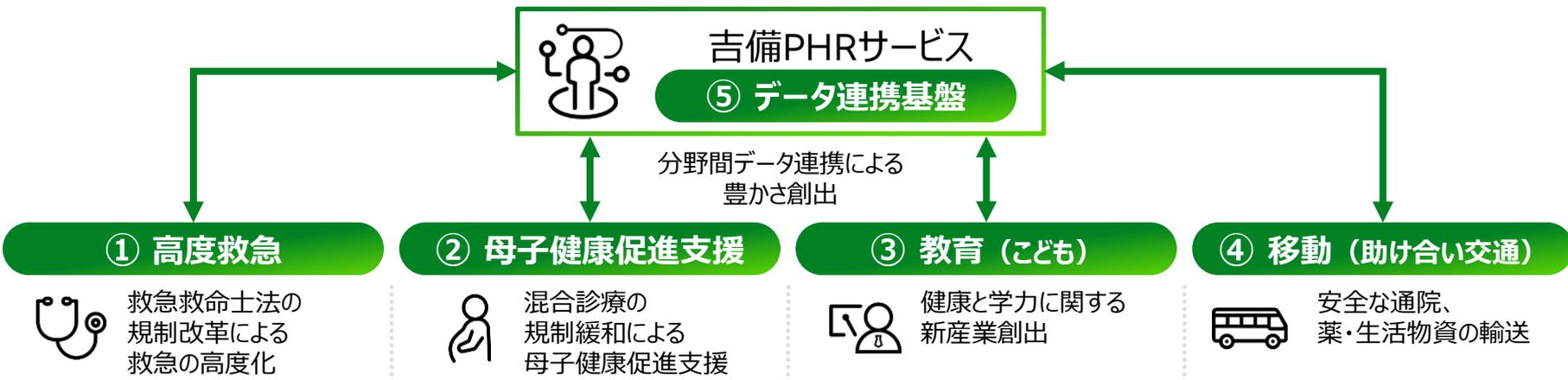
吉備中央町



吉備中央町 事業概要 「医療・福祉」を軸とした先端的サービス



健康情報のデジタル一元化



生涯を通じて医療・健康情報を蓄積し、「救急」「母子健康促進支援」「教育」「移動」の各分野でパーソナルヘルスケアレコード（PHR）情報を活用

デジタル田園健康特区をフィールドに 内閣府「先端的サービスの開発・構築等に関する調査事業」

地域課題

- ① 人に関わる医療健康情報が複数に偏在
- ② 組織、地域をまたがった医療健康情報の収集や連携も困難

実証調査の内容

- ✓ 複数分野・ベンダーのデータを標準規格に変換
- ✓ 各地域データ基盤間のデータ交換
- ✓ 二次利用のためのデータ連携及びID管理の調査

吉備中央町

加賀市

茅野市

調査の目指す方向性

- ① 個人のライフコースを通じた医療健康情報の一元化
- ② 健康増進支援や二次利用に資する地域間でのデータ連携・収集

先端的
サービスの
ポイント

デジタル田園健康特区において、医療情報の標準規格であるHL7・FHIRを核として各地域のPHR/EHRを連携し、高齢者等の健康増進の支援や健康医療データの二次利用の促進を目指す



地域の皆様と様々な企業が一体となって共創することで地域課題解決を実現

スーパーシティ、スマートシティ実現に向けた 今後の課題

今後に向けた課題

1 個々の取り組みの統合

2 住民へのベネフィット

3 グローバル展開

① 個々の取り組みの統合

システム・データ連携

自前主義

独自仕様

デジタル庁推奨モジュールや
OSSの活用
標準／国際規格への準拠
(HL7 FHIR等)

地域の独自性とオープン性を 両立したサービス

暗黙知

個別調整

具体的でわかりやすい
サービス仕様
明確なサービス分界点

健全な競争と模倣

創造的な取り組みとしての
地域間の競争
いい取り組みは
まねる／取り入れる

地域の取り組みがバラバラにならず、それぞれがより良い取り組みを創出し、
連携、普及、統合できる仕組み

2 住民へのベネフィット



デジタル×リアル

- 人に寄り添うサービスと
デフレーミングされたサービスを融合
- 地域のステークホルダーが
活動しやすい仕組み



エッセンシャルなサービス

- 自治体や医療機関等の基幹系
システムと連携



サステナブルなオペレーション

- 安定した運用を実現するため、
住民をはじめとする多様な
ステークホルダーの巻き込み/
収益の多様化（SIB含む）

③ グローバル展開

デジ田

生活サービス等



住民起点

海外

エネルギー・交通等
都市機能マネジメント



インフラ起点

住民サービスを中心とした取り組みをシステム、ソリューションとして確立（住民サービスのDX）
日本初のユニークな取り組みとしてグローバルへの展開

豊かな社会に向けて

2040年の社会の姿

	1989年 (平成元年)	2019年 (令和元年)	2040年 (令和22年)
高齢者数 (高齢化率)	1,489万人 (12.1%)	3,589万人 (28.4%)	3,921万人 (35.3%)
就業者数 (うち医療福祉従事者数)	6,128万人 (221万人) 約28人に1人	6,724万人 (843万人)	5,245～6,024万人 (1,070万人) 約5人に1人
社会保障給付費 (対GDP比)	47.4兆円 (10.5%)	117.1兆円 (21.4%)	188.2～190.0兆円 (23.8～24.0%)

出典：令和2年版「厚生労働白書」をもとに富士通にて作成

人々の豊かさに向けて



多様なステークホルダーとともに

スーパーシティ、スマートシティに関する取り組みを通じて
豊かな社会を実現

Thank you

